

令和8年度全国大会 研究討論会（23）

近年に発生した災害の現状・防災まちづくりに係る取組と
今後の地域レジリエンスの在り方

公益社団法人 土木学会 安全問題研究委員会・地域安全小委員会 委員会活動報告

令和8年9月1日（火）

地域安全小委員会 長谷川 潤（さいたま市） 〇

1 地域安全小委員会について

- ・少子高齢化社会のさらなる進展、東京圏や都市部への人口集中、地方自治体の財政難、老朽化インフラの増加等の問題を抱える中、災害発生後もいかにして市民の安全で安心な生活を維持、継続していくかが課題
- ・土木学会として、市民のための社会・経済活動を支える基盤づくりを進めていくうえで、このような課題への対応策を提示することが大きな役割の1つ

今後発生が危惧される大規模災害への対応しうるこれからの社会における地域のレジリエンスの在り方について、土木技術者と社会や市民との対話という視点を考慮しながら、調査研究を進める

- ・市民の良質な生活空間を継続して確保するための在り方・方向性
- ・地方、都市部それぞれの継続的なリスクコミュニケーションの在り方
- ・地域の災害リスクに対する市民の許容性とそれに係る公的、社会的支援等

地域安全小委員会委員名簿

・委員長	長谷川 潤	さいたま市役所
・副委員長	矢内 匠	珠洲市役所(さいたま市役所から出向)
・副委員長	山口 健太郎	(株)三菱総合研究所
・幹事長	磯打 千雅子	香川大学IECMS地域強靱化研究センター
・委員	井上 晋一	(株)JR東日本商事
・委員	大和田 勝文	清水建設(株)
・委員	大平 真弓	応用地質(株)
・委員	指田 朝久	東京海上ディーアール(株)
・委員	佐藤 英治	いであ(株)
・委員	白木 渡	香川大学
・委員	須藤 英明	ものづくり大学
・委員	高鍋 剛	(株)都市環境研究所
・委員	高橋 弘樹	(独)労働安全衛生総合研究所
・委員	竹元 貴彦	(株)システム二十一
・委員	濱田 俊介	応用地質(株)
・委員	早川 直喜	札幌市役所
・委員	広兼 道幸	関西大学
・委員	中本 康晴	東日本旅客鉄道(株)
・委員	柳 幸一	国土交通省
・委員	山中 憲行	前橋工科大学

※令和8年4月現在(順不同 敬称略)

2

2 有識者・実務者意見交換、基礎自治体等ヒアリング調査



- (1) 多様な視点での地域レジリエンスに係る考え方の把握を目的に様々な分野の有識者や実務者との意見交換を実施
- (2) 地域コミュニティ継続に係る取組事例の把握を目的に基礎自治体等へのヒアリング調査を実施

(1) 意見交換実施概要 ※各専門分野での取組について委員会内で講演頂いた後、意見交換を実施

① 倉敷市真備町での西日本豪雨被害時の実体験ならびにその後の活動

(サツキPROJECT代表 津田 由起子氏)

②「水害地域学習研究会」の取組 ～水害に関する「地域の学び」を支援する技術～

(長岡技術科学大学工学部環境社会基盤系 准教授 松田 曜子氏)

③ (株)HITOTOWA取組事例及び書籍「ネイバーフットデザイン」の概要紹介

(株)HITOTOWA シニアディレクター 高村 和明氏)

④ 農山村の実態と再生課題

(明治大学農学部専任教授 小田切 徳美氏)

⑤ 復興とコミュニティ

(東北大学災害科学国際研究所教授 姥浦 道生氏)

⑥ 東日本大震災におけるURの復興まちづくり支援 ～ハードとソフトの両面から～

(独立行政法人 都市再生機構 震災復興支援室長 山本 直氏)

(2) 基礎自治体等ヒアリング調査実施概要

・鳥取県 智頭町役場:「1/0村おこし運動」「百人委員会」等の取組紹介

・宮城県 女川町 復興に係る取組等についてヒアリング

・宮城県 石巻市 (株)街づくりまんぼう 復興まちづくり等についてヒアリング

3

2 有識者や実務者との意見交換結果まとめ



- ・ポピュレーション・アプローチによって社会的要因を探索し、集団を対象とした働きかけ
- ・隣人を知るなど繋がりがあれば臨機応変に動ける→地域の人との連携が重要
- ・地域住民の風通しの良さ、顔が見える関係性の構築が地域レジリエンスにつながる
- ・地域のコミュニティが形成されている地域は、災害時に強い
- ・防災に限らず多様な社会課題の担い手との連携が重要
- ・標準化は否定しないが、どこでも通用するレシピは存在しない
→標準化と土着とのバランス
- ・個人、ライフスタイルの多様性を扱える手法が必要
- ・次の世代にも支持される暮らし→内発性、多様性、革新性
- ・平時から地域の課題や在り方を考える場や組織
- ・地域に深く関わっていく人材の発掘
- ・地域の危機感に係る住民と行政との共有、住民と行政との良好な関係性構築

地域レジリエンスとは・・・

普段の何気ない生活様式、コミュニティ、生活環境、ローカルルール、多様性、地域特異性の維持継続、地域の主導的な人材発掘等
⇒これらを高めていくことが必要

4

2 基礎自治体等へのヒアリング調査結果まとめ



鳥取県智頭町企画課

- ・自分たちの村は、自分たちで守るという意識を醸成させることが大きな狙い
- ・人口減少に係る危機感を持った方が住民の中におり、その方が行政を巻き込み進めてきたことが、住民が自主的に動くようになったきっかけだと考えられる
- ・行政職員が集落に入り、様々な人と知り合い関係性を構築することが役立つ
- ・行政ではなく、地域のキーマンが声がけすると住民が集まってくる

宮城県女川町

- ・復興に当たっては、民間事業者が先行的にまちづくり組織を構築し、その組織に行政が入っていった
- ・まちの特色としてもともと地域と民間事業者とのつながりが強かった
- ・もともと、まちに対するマインドが高い
- ・地縁・血縁関係のつながりが強いことなどが地域コミュニティの特徴
- ・まちの人は、新しい民間の事業者の人が来ててもを避けることはない
- ・未来の世代を育てている30代、40代の考えを積極的に聞く。60代以上は、口は出さないけど、お金を出す、自分達は一歩後ろで控えているからやってみようという思い。

宮城県石巻市(雫)街づくりまんぼう

- ・まちづくりの部門が震災後に大きくなった
- ・震災前の漫画によるコミュニティが震災復興にかなり貢献したと感じている
- ・復興の最初は、50代や60代前半の方々が集まり、話し合い→絵をまとめて→行政に提案するというサイクルを何回も行った
- ・商業事業者の想いを実現させていくイメージが復興につながっていく

5

3 アンケート調査設計①



【アンケート調査の考え方と目的】

- ・これまでの被災地域における復興に係る特徴としては下記①～⑥のような項目が考えられる。
- ・すなわち①～⑥の項目が備わった地域は復興力が高いと推測されるとともに、既往文献※で定義されている地域レジリエンスの構成要素(Adaptive(適応力)、Robust(堅牢性)、Redundant(冗長性)、Flexible(柔軟性)、Resourceful(資源力)、Inclusive(包括性)、Integrated(統合性))等に一定の関連性があると考えられる。

- ①意思決定力:物事を決める力
- ②プロジェクト推進力:決めたことをやる力
- ③組織形成力:必要に応じてチームビルディングできる力
- ④人材登用力:適材を登用、世代交代を良しとする
- ⑤情報共有力:情報伝達、日常のコミュニケーションの濃密さ
- ⑥受援力:外部の支援を受け止める、活用する力

- ・以上から、地域レジリエンスにおける一定の在り方を見出すため、レジリエンスの構成要素と復興の特徴の関連性を把握することを目的に、複数の地域において上記①～⑥の項目における地域住民や自治体職員の意識の度合いを調査する。

※既往参考文献

- ・レジリエントな都市、国土交通省、2016年6月
- ・コミュニティ・レジリエンスの考え方に基づくコミュニティ継続計画(CCP)策定手法の提案、畠山ほか、2013、土木学会論文集

6

3 アンケート調査設計②



【復興に係る特徴を踏まえた調査設問内容の設定に係る考え方】

- ・前頁に示した復興に係る6つの項目ごとに、これまで実施してきた有識者や実務者との意見交換及び、基礎自治体ヒアリング結果から得られた特徴を整理(下表参照)。

⇒特徴は、以下の5つのカテゴリーで整理

- 有識者・実務者意見交換で話題提供され、大規模な水害被害を受けた真備町
- 基礎自治体ヒアリングを実施した鳥取県智頭町、宮城県女川町、石巻市
- その他、有識者・実務者意見交換での意見

- ・整理した復興に係るカテゴリーごとの特徴を踏まえ、地域住民向けの設問内容を設定
- ・地域住民向けの設問内容を参考に、自治体職員向けの設問内容を設定
- ・設問は、答えやすいよう基本的に一人称での問いとし、どの設問も共通した5つの選択肢(とてもあてはまる・やや当てはまる・どちらともいえない・あまりあてはまらない・まったくあてはまらない)による回答方法とした。

復興に係る特徴	倉敷市 真備町	鳥取県 智頭町	宮城県 女川町	石巻市 錦町 つり まんぼう	その他 有識者等意見
意思決定力:物事を決める力	...		...	...	
プロジェクト推進力:決めたことをやる力	...	...			...
組織形成力:必要に応じてチームビルディングできる力		...	...	...	
人材登用力:適材を登用、世代交代を良しとする	...	...	...		...
情報共有力:情報伝達、日常コミュニケーションの濃密さ			...	...	...
受援力:外部の支援を受け止める、活用する力	...	...		...	...

7

3 アンケート調査設計③（復興に係る特徴まとめ i）



【意見交換やヒアリング調査結果から得られた復興に係る特徴のまとめ i（キーワード）】

意思決定力： 物事を決める力	・これまで経験してきた地域の課題が礎となり、ブレることのない信念 ・（地域が）自分達でやらないといけないという前提 ・自分達の町を作り上げていくという感覚 ・復興計画を地域の様々な方々と一緒に作成 ・住民の情報取得ハードルが下がり、学習を促進させる ・中立な立場の第三者の存在が重要 ・行政と住民の間に第三者が入り、お互いが共通のゴールを目指す ・平時から地域自治や地域のマネジメントの発展を進めていく重要性 ・町をどうしていくかということを住民とある程度議論を進めておく
プロジェクト推進力： 決めたことをやる力	・意見交換する場の共有 ・スピード感をもって対応する、時間をかけて見極める必要 ・リーダーシップ ・住民の思いを行政、議会が受容して実現、ここではやりたい思いをぶつける（住民主導：住民の強い思い） ・住民の意見をその場でスケッチを描いて具体的な画に落として行く（イメージの具体化と共有、住民の意見の吸い上げ） ・地元の方々が主体でイベント企画してもらえるようにするための募集要項を作成（様々な人と協働作業、地域の主体での企画、ルールの作成、発信） ・地方公共団体内の体制指揮命令系統の構築、効率的に回すマネジメント

8

3 アンケート調査設計④（復興に係る特徴まとめ ii）



【意見交換やヒアリング調査結果から得られた復興に係る特徴のまとめ ii（キーワード）】

組織形成力： 必要に応じてチーム ビルディングできる力	・住民との関係性 ・誰でも参加できるようなやわらかなチームング ・集落単位で地区復興協議会 ・リーダーシップ、危機意識 ・民間の任意団体、民間事業者 ・街づくりまんぼうのまちづくりの部門が復興事業 ・多様な社会課題の担い手との連携 ・地域の防災や安全につながる視点を社会全体で共有 ・地域の課題や在り方を考える場や組織
人材登用力： 適材を登用、世代 交代を良しとする	・誰でも参加できるようなやわらかなチームング ・住民のアイデアを実現していくことが重要 ・中学生の提案 ・未来の世代を育てている30代、40代の考えを積極的に聞く。60代以上は一步後ろで控えているからやってみようという思い。 ・他の事業者と共に取組み、地元事業者、行政、専門家が一体となって入り、いろいろな検討 ・次の世代にも支持される暮らしが生み出せるかを追求 ・多様なプレイヤー交錯、多様な人材ごちゃまぜの場 ・地域に深く関わっていく人材の発掘 ・公民連携による人材の発掘

9

3 アンケート調査設計⑤（復興に係る特徴まとめiii）



【意見交換やヒアリング調査結果から得られた復興に係る特徴のまとめ iii（キーワード）】

情報共有力： 情報伝達、日常コミュニケーションの濃密さ	・地域交流の必要性 ・クラウドファンディングで情報発信 ・取組をモデルに全国へ発信 ・ホスピタリティ ・若い職員が一人ずつ集落に入り、集落の振興協議会に張り付く ・組織内外の連携 ・合意形成の過程のオープン化 ・意思決定プロセスが大きい場で行われていた ・区長が中心となりコミュニティを醸成 ・商店街の方々が自主的に中心部に集まり情報共有 ・ヒヤリハット経験を共有 ・地縁の有無が生死にかかわる ・コミュニケーションが広がることで防災や防犯などの困りごとの解決につながる ・コミュニティが街やマンションにあって、必要な場合にアクセスできること ・顔が見える関係性
受援力： 外部の支援を受け止める、活用する力	・クラウドファンディングで情報発信 ・NGO等様々な団体からの支援 ・自治体間で意見交換や連携 ・企業研修が近年増えた ・ゼネコンやUR都市機構、コンサルタントが入り、マスコミや住民等も参加可能なデザイン会議 ・大学の先生などに入ってもらい検討 ・ターンやリターンで来た人などを活用 ・国土交通省の事務所や石巻市の方と密に連携 ・地元事業者、行政、専門家が一体となって入り、いろいろな検討 ・関係人口の多さと多様性 ・多様なプレイヤーや人材が交錯できる場づくり ・外部機関の専門家と平時から連絡できる体制の構築

10

3 地域住民向けアンケート調査（アンケート設問内容）



【復興に係る特徴を踏まえた地域住民向けアンケート設問内容】

意思決定力： 物事を決める力	・私は普段の生活や仕事等で何かしらの判断を迫られた場合、その場に応じた決断ができる自信がある。 ・私は住んでいる地域で課題などがあつた場合、それを自分事として捉え、何らかの形で協力していく考えがある。 ・私の住んでいる地域には、町会内会の役員など、地域リーダー的な存在の人がいる。
プロジェクト推進力： 決めたことをやる力	・私は地域のイベントや自治会などにおいて他の住民の方と一緒に行動する機会がある。 ・私は住んでいる地域の自治体に対して、意見を出したり、提案したことがある。 ・私の住んでいる地域では、自治体から頻繁に情報提供が行われている。 ・私は何かの物事を進める時にその過程を周りに広く知ってもらうなど、周囲の方に理解してもらいながら進めることがある。
組織形成力： 必要に応じてチームビルディングできる力	・私は地域の集まりでリーダーの役割を担うことができる。 ・私は地域の様々な方とコミュニケーションを取っている。 ・私は防災・安全・まちづくりなどに関して行政や大学、民間事業者などと関わりがある。 ・私の住んでいる地域では、お祭りなどの地域イベントが行われている。 ・私の住んでいる地域では、公民館やコミュニティセンターで、定期的な集会（講習会、カルチャースクールなど）が行われている。
人材登用力： 適材を登用、世代交代を良しとする	・私は地域をよくするためには、住民のアイデアを募り、実現していくことが重要だと考えている。 ・私は子どもたちや若い世代の提案を取り入れることが、地域を良くしていくために重要と考えている。 ・私は地域をよくするためには、企業や行政、専門家などが一体となって取り組むことが重要だと考えている。 ・私は地域をよくするためには、多様な人材（様々な世代や職種の人）が関わることを重要だと考えている。 ・私は地域をよくするためには、公共機関と民間事業者が連携し、時には深くかわつていく民間人材の発掘が重要だと考えている。
情報共有力： 情報伝達、日常コミュニケーションの濃密さ	・私には、住んでいる地域のことから何でも知っている知人がいる。 ・私には、何か困ったことや不満があつたときに、相談できる自治体職員や政治家など、相談する相手がいる。または、地域に相談しやすい雰囲気がある。
受援力： 外部の支援を受け止める、活用する力	・私は、困った時、遠慮せずに連絡を取れる人がいる。 ・私には、災害に対する知識、経験を持った知り合いがいる。 ・私は、困った時に一方的に助けてもらうだけでなく、助けてくれた人と協力しながら物事を前に進めていくことができる。

11

3 地域住民向けアンケート調査方法



【調査対象地域】

これまでのヒアリング調査や有識者・実務者との意見交換で把握した地域のうち、サンプル数が確保できる地域および、大きな被災経験の少ない都心近郊の都市として以下を調査対象地域として設定

・さいたま市、倉敷市、石巻市

【調査方法】

・地域住民向けインターネットモニターアンケート調査

⇒地域活動の参加の有無によりスクリーニングを実施し、参加有の場合本調査実地

※地域活動：自主防災組織、町内会・自治会、PTA、婦人会、子ども会、老人クラブ、消防団、福祉に関する団体、趣味やスポーツの団体、NPO、その他

【地域住民向けアンケート調査項目】

- ・基礎情報：年齢、居住地域（市町村単位）
- ・現居住地域での居住年数
- ・子どもの有無
- ・住居形態（一戸建て、集合住宅等）
- ・被災の有無
- ・本設問

12

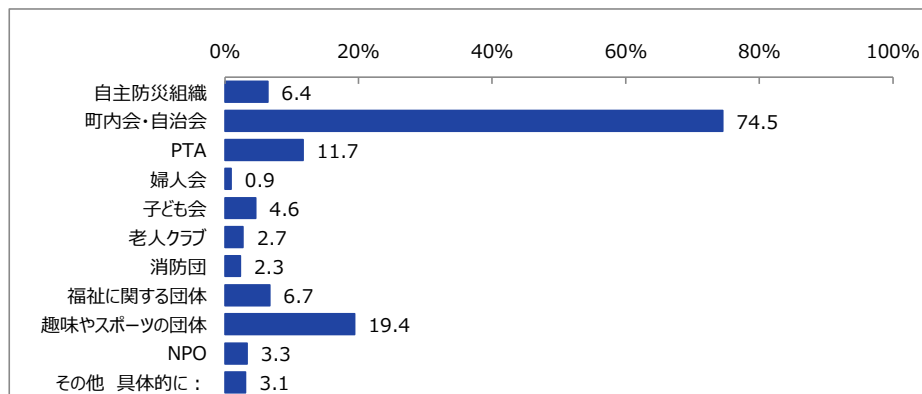
4 地域住民向けアンケート調査結果① 単純集計結果



■ サンプル数 ・さいたま市：478、倉敷市：412、石巻市：89 合計1000サンプル

■ 単純集計結果①

・参加している地域活動別割合（n=1000）



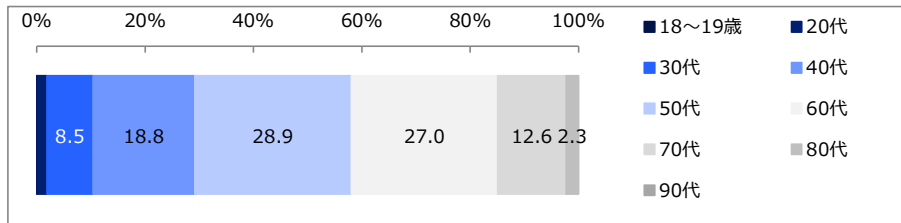
13

4 地域住民向けアンケート調査結果② 単純集計結果

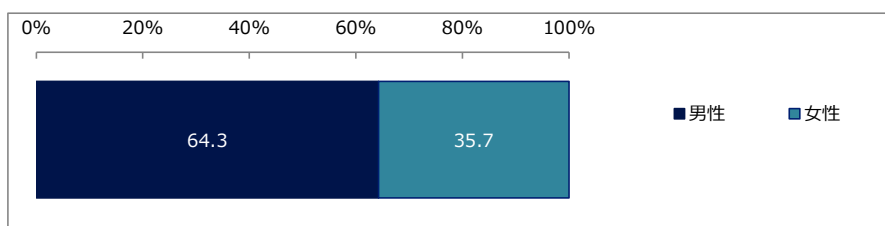


■単純集計結果②

・年齢別割合 (n=1000)



・性別割合 (n=1000)



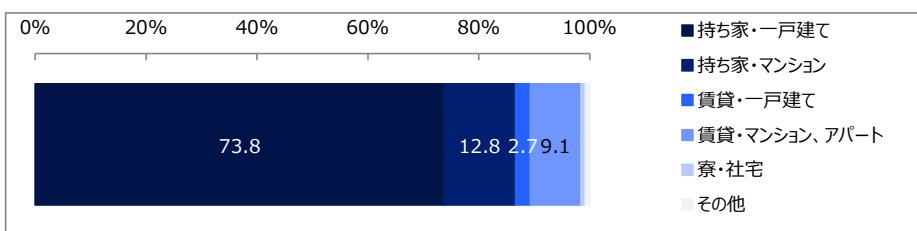
14

4 地域住民向けアンケート調査結果③ 単純集計結果

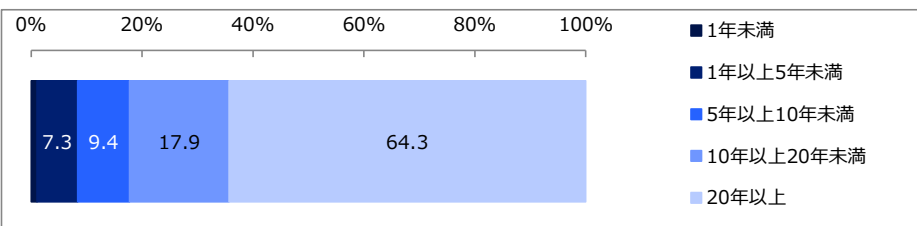


■単純集計結果③

・住居形態別割合 (n=1000)



・在住期間別割合 (n=1000)



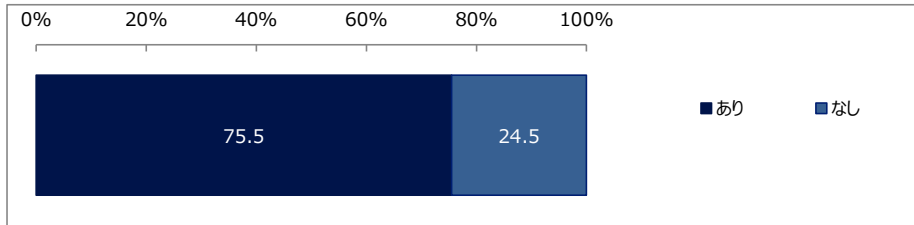
15

4 地域住民向けアンケート調査結果④ 単純集計結果

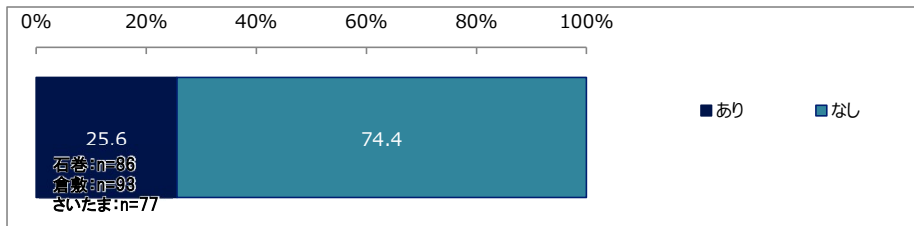


■単純集計結果④

・子ども有無別割合 (n=1000)



・災害による被害経験有無別割合 (n=1000)



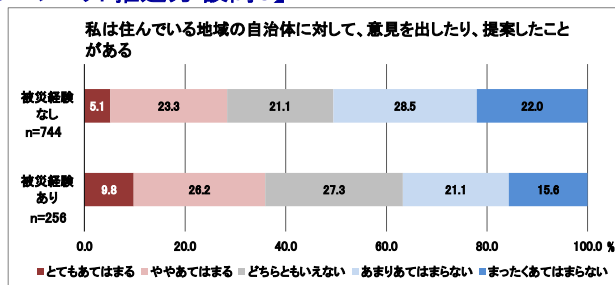
16

4 地域住民向けアンケート調査結果⑤ クロス集計結果(T検定有意)



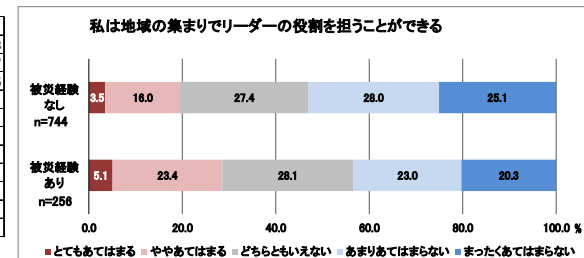
■被災経験有無別【プロジェクト推進力 設問5】

	変数 1	変数 2
平均	51.2	148.8
分散	355.7	4288.7
観測数	5	5
プールされた分散	2322.2	
仮説平均との差異	0	
自由度	8	
t	-3.20236	
P(T<=t) 片側	0.006284	
t 境界値 片側	1.859548	
P(T<=t) 両側	0.012568	
t 境界値 両側	2.306004	



■被災経験有無別【組織形成力 設問8】

	変数 1	変数 2
平均	51.2	148.8
分散	507.7	5994.7
観測数	5	5
プールされた分散	3251.2	
仮説平均との差異	0	
自由度	8	
t	-2.70644	
P(T<=t) 片側	0.013403	
t 境界値 片側	1.859548	
P(T<=t) 両側	0.026806	
t 境界値 両側	2.306004	

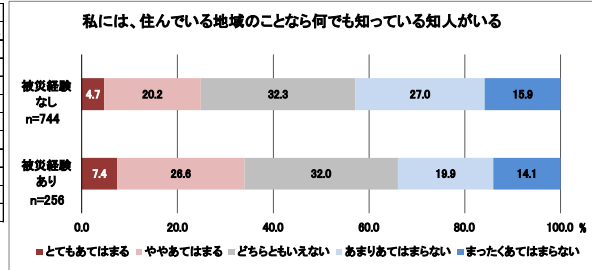


17

4 地域住民向けアンケート調査結果⑥ クロス集計結果(T検定有意)2

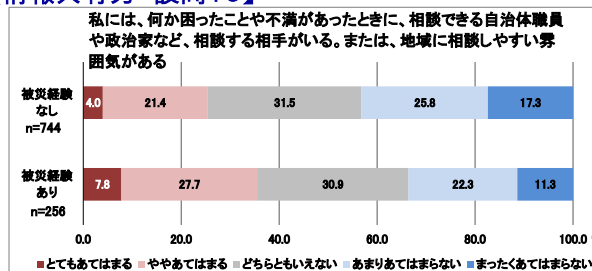
■被災経験有無別【情報共有力 設問18】

	変数 1	変数 2
平均	51.2	148.8
分散	624.7	6235.7
観測数	5	5
プールされた分散	3430.2	
仮説平均との差異	0	
自由度	8	
t	-2.63488	
P(T<=t) 片側	0.014975	
t 境界値 片側	1.859548	
P(T<=t) 両側	0.029951	
t 境界値 両側	2.306004	



■被災経験有無別【情報共有力 設問19】

	変数 1	変数 2
平均	51.2	148.8
分散	666.2	5933.7
観測数	5	5
プールされた分散	3299.95	
仮説平均との差異	0	
自由度	8	
t	-2.68637	
P(T<=t) 片側	0.013826	
t 境界値 片側	1.859548	
P(T<=t) 両側	0.027652	
t 境界値 両側	2.306004	

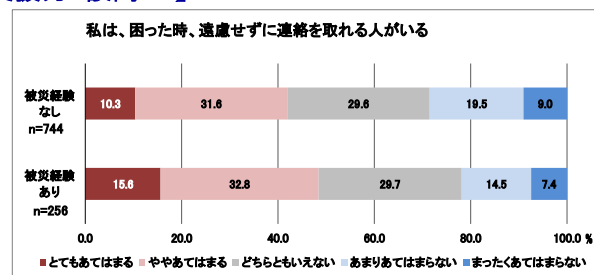


18

4 地域住民向けアンケート調査結果⑦ クロス集計結果(T検定有意)3

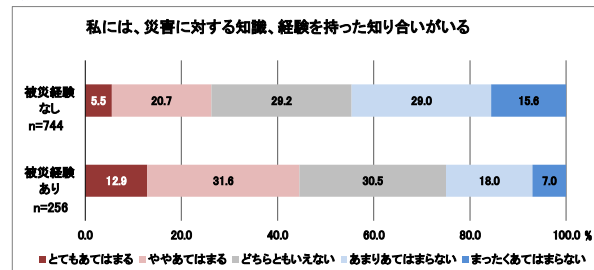
■被災経験有無別【受援力 設問20】

	変数 1	変数 2
平均	51.2	148.8
分散	763.7	6090.2
観測数	5	5
プールされた分散	3426.95	
仮説平均との差異	0	
自由度	8	
t	-2.63612	
P(T<=t) 片側	0.014946	
t 境界値 片側	1.859548	
P(T<=t) 両側	0.029893	
t 境界値 両側	2.306004	



■被災経験有無別【受援力 設問21】

	変数 1	変数 2
平均	51.2	148.8
分散	766.7	5472.7
観測数	5	5
プールされた分散	3119.7	
仮説平均との差異	0	
自由度	8	
t	-2.76289	
P(T<=t) 片側	0.012282	
t 境界値 片側	1.859548	
P(T<=t) 両側	0.024565	
t 境界値 両側	2.306004	

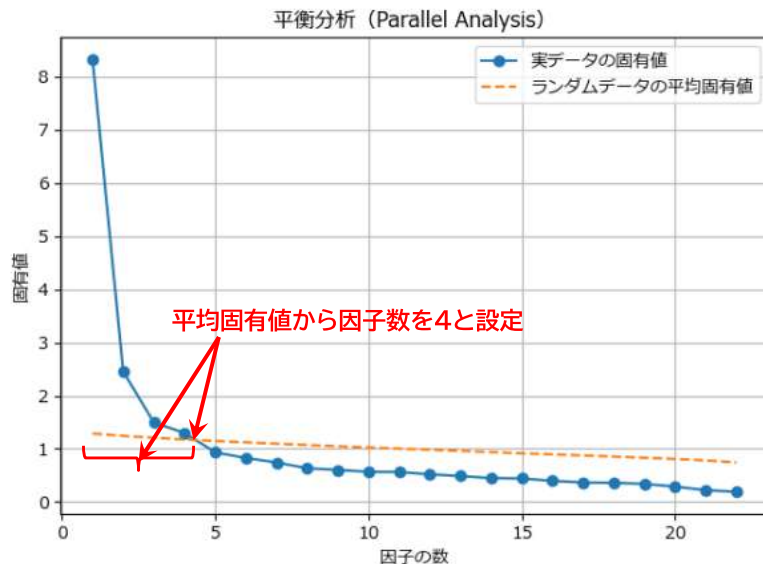


19

4 地域住民向けアンケート調査結果⑧ 因子分析結果速報版1



■ 因子分析結果(因子数の設定)



20

4 地域住民向けアンケート調査結果⑨ 因子分析結果速報版2



■ 因子分析結果(因子負荷量)

	設問番号	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	因子	設問
意思決定力	1	0.40	0.24	0.19	0.09	1	1, 2, 4, 5, 7, 8, 9, 18, 19
	2	0.47	0.31	0.22	0.15	2	13, 14, 15, 16, 17
	3	0.14	0.15	0.08	0.60	3	18, 19, 20, 21, 22
プロジェクト推進力	4	0.49	0.15	0.05	0.52	4	3, 4, 6, 11, 12
	5	0.76	0.07	0.13	0.15		
	6	0.30	0.20	0.13	0.54		
組織形成力	7	0.58	0.21	0.23	0.16		
	8	0.76	0.10	0.22	0.03		
	9	0.59	0.13	0.35	0.31		
人材登用力	10	0.057	0.06	0.38	0.02		
	11	-0.05	0.28	0.19	0.54		
	12	0.08	0.31	0.13	0.50		
情報共有力	13	0.22	0.61	0.16	0.24		
	14	0.17	0.70	0.09	0.19		
	15	0.10	0.77	0.07	0.18		
受援力	16	0.12	0.81	0.06	0.24		
	17	0.10	0.75	0.16	0.15		
	18	0.42	0.10	0.52	0.26		
	19	0.42	0.06	0.62	0.17		
	20	0.16	0.17	0.66	0.12		
	21	0.35	0.13	0.61	0.11		
	22	0.31	0.39	0.43	0.14		

・復興に係る特徴を4つの因子に集約
⇒第1因子【意思決定力+プロジェクト推進力+情報共有力】
：地域参画力(地域活動において、他者と関わったり、協力し合ったり、リーダー的行動や判断などをする力)
⇒第2因子
：人材登用力
⇒第3因子【情報共有力+受援力】
：協働要請力(自分から他者に助けを求めることができ、相談や他者と協力する力)
⇒第4因子【プロジェクト推進力+組織形成力】
：地域住民との交流機会(地域イベントや自治会などが存在しており、他者と関わる機会がある)

21

4 地域住民向けアンケート調査結果⑨ 因子分析結果速報版3



■因子得点比較

被災有無別					
	N	地域参画力	人材登用力	協働要請力	地域住民との交流機会
		意思決定力+プロジェクト推進力+情報共有力		情報共有力+受援力	プロジェクト推進力+組織形成力
被災経験有	256	0.169859607	-0.062310623	0.220796429	-0.060589653
被災経験無	744	-0.058446316	0.021440215	-0.075972965	0.020848053

職種別					
	N	地域参画力	人材登用力	協働要請力	地域住民との交流機会
		意思決定力+プロジェクト推進力+情報共有力		情報共有力+受援力	プロジェクト推進力+組織形成力
営業・販売	78	0.27484024	0.049038959	0.273458043	0.085445719
研究・開発・技術者	61	0.17159824	-0.009707315	0.076175586	-0.096052637
事務職	67	-0.113223524	0.030421888	-0.052923934	-0.07309743
管理職	46	0.386177718	-0.005198394	0.067499931	0.137540161
会社経営・役員	33	0.474702022	0.249579184	0.194504109	0.208430168
公務員・団体職員	51	-0.175595371	0.135732388	0.128181974	-0.117190202
専門職(医師・看護師・弁護士など)	41	-0.100793527	0.144819836	0.163940262	-0.440727082
自営業	65	-0.024170996	-0.183364765	0.183762949	-0.061533253
パート・アルバイト	128	-0.336538935	-0.125412787	0.032383265	0.003392006
専業主婦(主夫)	118	-0.406285549	-0.031244871	-0.143800743	0.149344693
無職	140	0.267890626	0.217596354	-0.151517181	0.065672163

22

4 地域住民向けアンケート調査結果⑩ 因子分析結果速報版4



■因子得点比較

所属有無別 子供会					
	N	地域参画力	人材登用力	協働要請力	地域住民との交流機会
		意思決定力+プロジェクト推進力+情報共有力		情報共有力+受援力	プロジェクト推進力+組織形成力
子ども会所属無	954	-0.011851539	-0.003843292	-0.016575673	-0.000234179
子ども会所属有	46	0.245790613	0.07970654	0.343765046	0.004856678

所属有無別 自主防災組織					
	N	地域参画力	人材登用力	協働要請力	地域住民との交流機会
		意思決定力+プロジェクト推進力+情報共有力		情報共有力+受援力	プロジェクト推進力+組織形成力
自主防災組織所属無	936	-0.059515937	-0.008710878	-0.016308063	-0.011507536
自主防災組織所属有	64	0.870420576	0.127396596	0.238505422	0.168297714

所属有無別 消防団					
	N	地域参画力	人材登用力	協働要請力	地域住民との交流機会
		意思決定力+プロジェクト推進力+情報共有力		情報共有力+受援力	プロジェクト推進力+組織形成力
消防団所属無	977	-0.017472499	0.000154507	-0.011843526	3.04E-05
消防団所属有	23	0.742201356	-0.006563206	0.50309239	-0.001292369

23

4 地域住民向けアンケート調査結果(参考) 主成分分析結果1



■主成分分析

		第1成分	第2成分	第3成分	第4成分	第5成分	第6成分	第7成分	成分	設問
意思 決定力	1	0.180	-0.068	-0.150	-0.210	0.600	0.240	-0.091	2	14, 15, 16, 17
	2	0.230	-0.043	-0.130	-0.200	0.360	-0.007	0.500	3	3, 4, 6, 11, 12
	3	0.160	0.110	0.480	-0.030	0.280	-0.310	-0.000	4	20, 21
プロ ジェクト 推進力	4	0.220	-0.034	0.320	0.270	0.026	-0.270	0.210	5	1, 2, 22
	5	0.220	-0.240	0.013	-0.330	-0.200	-0.041	0.058	6	11, 12
	6	0.210	0.050	0.370	-0.083	-0.011	-0.170	-0.440	7	2
組織 形成力	7	0.230	-0.140	-0.041	-0.180	-0.096	0.270	0.250		
	8	0.230	-0.260	-0.098	-0.250	-0.140	0.230	0.108		
	9	0.260	-0.180	0.096	-0.055	-0.044	-0.078	0.190		
人材 登用力	10	0.200	-0.270	-0.120	-0.008	-0.250	0.160	-0.220		
	11	0.160	0.220	0.360	0.260	-0.011	0.440	0.290		
	12	0.180	0.200	0.320	-0.091	-0.086	0.530	-0.014		
情報 共有力	13	0.230	0.240	-0.110	-0.031	-0.180	-0.028	0.190		
	14	0.210	0.300	-0.180	-0.066	-0.120	-0.071	0.028		
	15	0.200	0.350	-0.200	-0.042	-0.100	-0.140	-0.160		
受援力	16	0.220	0.360	-0.150	-0.061	-0.061	-0.062	-0.053		
	17	0.210	0.320	-0.230	0.033	-0.096	-0.073	-0.018		
	18	0.230	-0.180	0.071	0.230	-0.200	-0.210	0.200		
	19	0.230	-0.240	-0.010	0.290	-0.120	-0.130	0.200		
	20	0.190	-0.110	-0.097	0.510	0.170	-0.044	-0.065		
	21	0.220	-0.190	-0.093	0.340	0.041	-0.083	-0.230		
	22	0.240	0.004	-0.180	0.160	0.370	0.018	-0.130		

※閾値0.30

地域参画力

地域住民との
交流機会

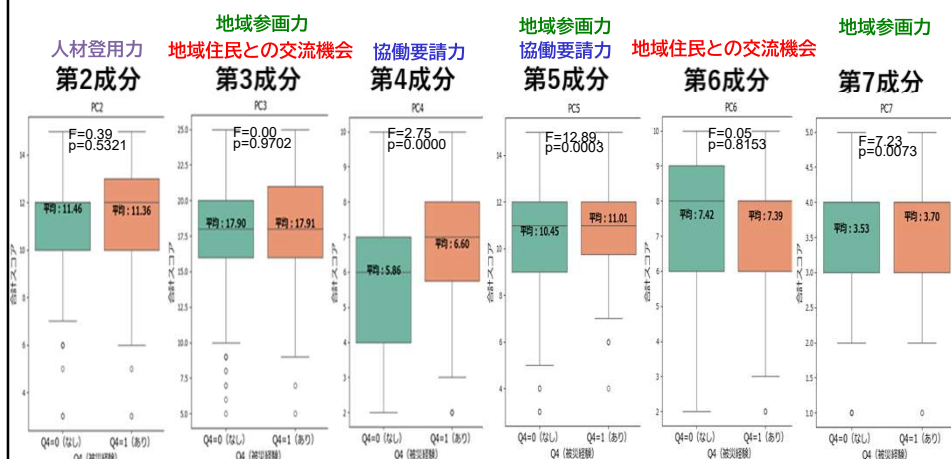
協働要請力

24

4 地域住民向けアンケート調査結果(参考) 主成分分析結果2



■主成分分析:各成分ごとの平均得点による分布(被災経験:なし/あり)



※スコア(数値)の見方

- ・とても当てはまる:1、やや当てはまる:2
- ・どちらともいえない:3
- ・あまり当てはまらない:4、まったく当てはまらない:5

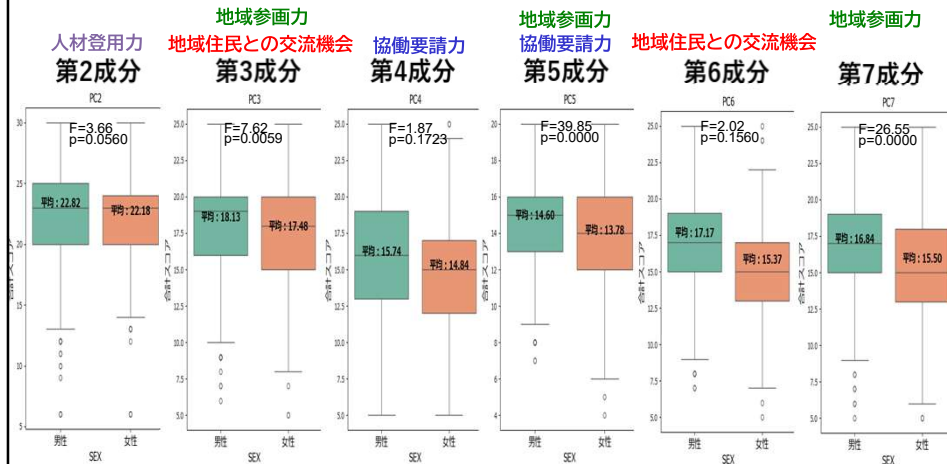
スコア(数値)が低い方が
対応力が高い

25

4 地域住民向けアンケート調査結果(参考) 主成分分析結果3



■主成分分析:各成分ごとの平均得点による分布(性別:男/女)



※スコア(数値)の見方

- ・とても当てはまる:1、やや当てはまる:2
- ・どちらともいえない:3
- ・あまりあてはまらない:4、まったく当てはまらない:5

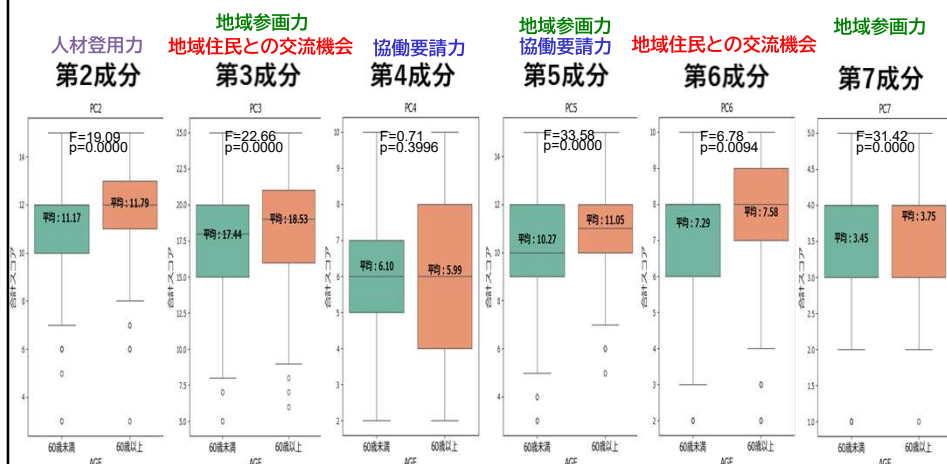
スコア(数値)が低い方が
対応力が高い

26

4 地域住民向けアンケート調査結果(参考) 主成分分析結果4



■主成分分析:各成分ごとの平均得点による分布(年齢:60歳未満/60歳以上)



※スコア(数値)の見方

- ・とても当てはまる:1、やや当てはまる:2
- ・どちらともいえない:3
- ・あまりあてはまらない:4、まったく当てはまらない:5

スコア(数値)が低い方が
対応力が高い

27

5 自治体職員向けアンケート設問内容



【自治体職員向けアンケート設問内容】 ←地域住民向け設問内容を参考に編集

意思決定力: 物事を決める力	- 私は職場で何かの判断を迫られた場合、的確に決断することができる。または決断する自信がある。 - 私は業務に従事する際、明確な目標をもって前向きに取り組んでいる。または、取り組んだことがある。 - 私は業務の課題解決には、地域住民や地域団体の協力がある程度必要と考えている。
プロジェクト 推進力:決めた ことをやる力	- 私は業務上、地域組織・住民等とともに地域活動やイベント等を行っている。または、行ったことがある。 - 私は業務上、地域組織・住民等にアドバイス等を行っている。または、行ったことがある。 - 私は業務上、地域組織・住民等に頻繁に情報提供を行っている。または、行ったことがある。 - 私は業務上、何らかの事項を決断しなければならないときに、その検討過程などを多様な団体、組織等に説明し協力し合いながら進めている。または、進めたことがある。
組織形成力:必 要に応じて チームビルディング できる力	- 私は業務上、防災やまちづくりを考える場合、地域組織や大学、地元民間企業などに参画を促すことができる。または、促す自信がある。 - 私は地域組織等と協働で行う業務で、リーダーの役割を担うことができる。または、担う自信がある。 - 私は業務上、地域住民とコミュニケーションを取っている。または、取ったことがある。 - 私は、防災、安全、まちづくりに関して、大学や民間企業などの団体、組織等と繋がる必要があると考えている。
人材登用力:適 材を登用、世代 交代を良しとす る	- 私は地域課題を解決するためには、住民のアイデアを募りながら取り組んでいくことが必要と考えている。 - 私は地域課題を解決するためには、子どもたちや若い世代(40代以下)の提案を取り入れることが必要と考えている。 - 私は地域課題を解決するためには、企業や地域、専門家などが行政一体となって取り組んでいくことが必要と考えている。 - 私は地域課題を解決するためには、地域の多様な人材(様々な世代や職種の人)に参画してもらうことが必要と考えている。 - 私は地域課題を解決するためには、民間人材と連携しながら取り組んでいくことが必要と考えている。
情報共有力:情 報伝達、日常コ ミュニケーションの濃 密さ	- 私は業務上、地域コミュニティ(例:自治会、自主防災組織、地域イベント・活動など)の活動の企画や支援を行うなど、地域コミュニティの活動に関わりがある。または、関わったことがある。 - 私は、地域コミュニティで中心的な役割を持つ人材を知っている。 - 私は業務上、地域からの相談や意見を受けたことがある。または、これまでに相談しやすいと言われたことがある。
受援力:外部の 支援を受け止め る、活用する力	- 私は、災害時(災害が起こった際)、外部団体等に「躊躇ない応援の要請」を行うことができる。または、行う自信がある。 - 私は、災害対応のノウハウ等を持った専門家等との繋がりがある。 - 私は業務上、地域の自主防災組織や地元民間事業者など、地域の多様な組織・団体等と連携して災害・復旧・復興対応を行うことができる。または、行う自信がある。

28

5 自治体職員向けアンケート調査方法



【調査対象地域】

地域住民アンケート調査に合わせて以下を調査対象自治体として設定
・さいたま市、倉敷市、石巻市

【調査方法】

・対象自治体職員を対象に、当該小委員会の委員を通じて依頼し、協力者より回答

【自治体職員向けアンケート調査項目】

- ・自治体名
- ・これまで最も在籍期間の長かった所属部署⇒以下の選択肢
 - ①総務・企画・防災系
 - ②財政系
 - ③経済・産業・農林水産系
 - ④文化・教育・スポーツ系
 - ⑤福祉・子育て・保健・環境系
 - ⑥土木・建設系
- ・役所在職年数⇒①5年未満、②5年以上10年未満、③10年以上20年未満、④20年以上
- ・本設問
⇒地域住民向けアンケート調査設問を自治体職員向けに編集

29

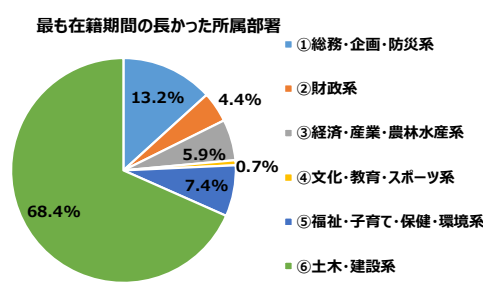
5 自治体職員向けアンケート調査結果① 単純集計結果速報版1



■ サンプル数 ・さいたま市:85、倉敷市:50、女川市:1 合計136サンプル

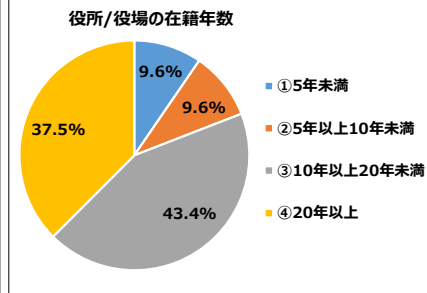
■ 単純集計結果①

・これまで最も在籍期間の長かった
所属部署(n=136)



■ 単純集計結果②

・役所/役場の在籍年数(n=136)



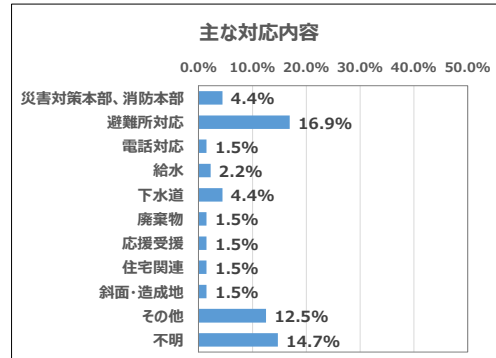
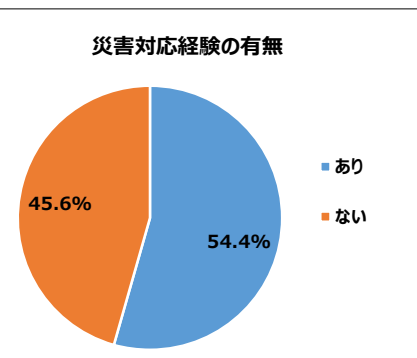
30

5 自治体職員向けアンケート調査結果② 単純集計結果速報版2



■ 単純集計結果③

・災害対応の有無 (n=136)

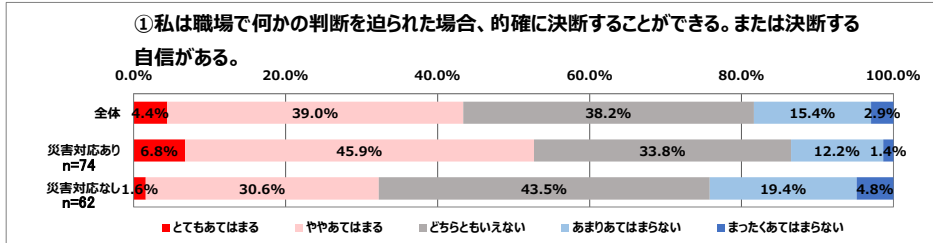


31

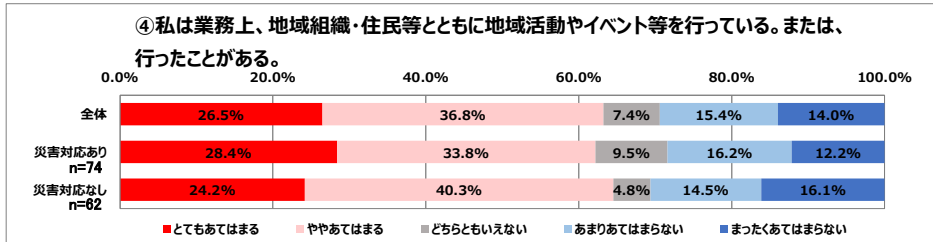
5 自治体職員向けアンケート調査結果③ クロス集計結果速報版1



■クロス集計結果【意思決定力】



■クロス集計結果【プロジェクト推進力】

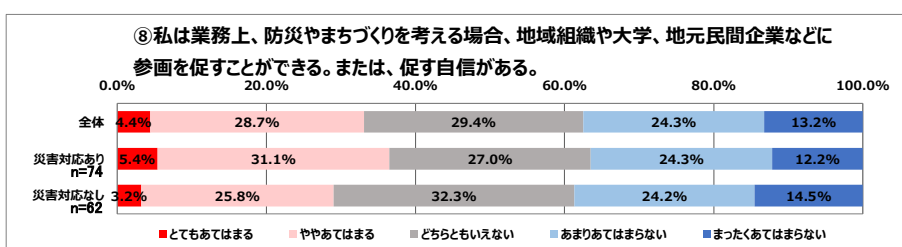


32

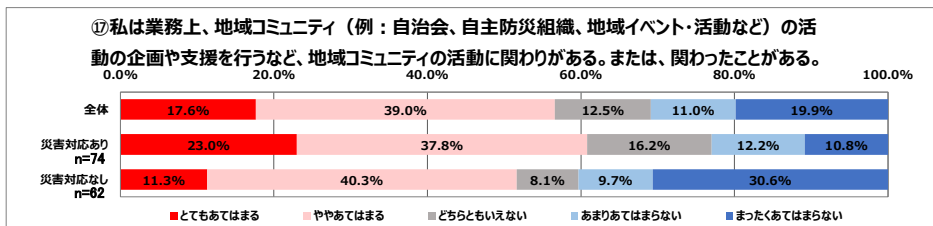
5 自治体職員向けアンケート調査結果④ クロス集計結果速報版2



■クロス集計結果【組織形成力】



■クロス集計結果【人材登用力】



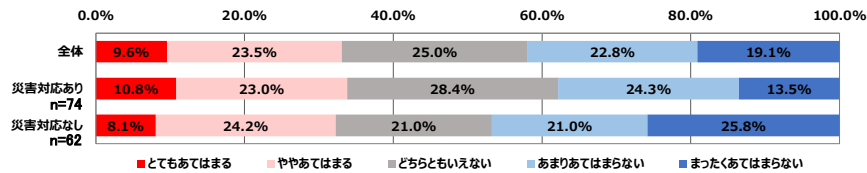
33

5 自治体職員向けアンケート調査結果⑤ クロス集計結果速報版3



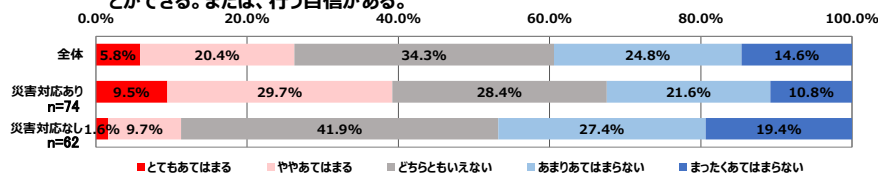
■クロス集計結果【情報共有力】

⑱私は、地域コミュニティで中心的な役割を持つ人材を知っている。



■クロス集計結果【受援力】

⑲私は、災害時（災害が起こった際）、外部団体等に「躊躇ない応援の要請」を行うことができる。または、行う自信がある。



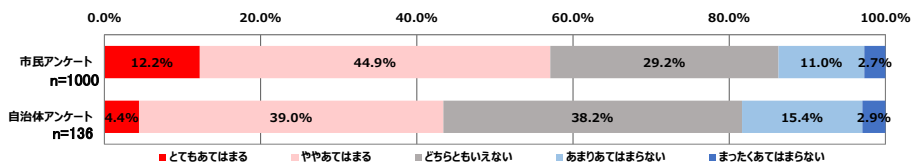
34

5 住民向け・自治体職員向けアンケート調査結果比較①



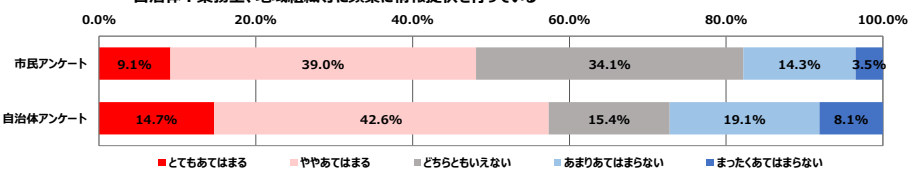
■クロス集計結果【意思決定力】

市民：判断を迫られた場合、その場に応じた決断ができる自信がある
自治体：判断を迫られた場合、的確な判断・決断する自信がある



■クロス集計結果【プロジェクト推進力】

市民：地域に対して自治体から頻繁に情報提供が行われている
自治体：業務上、地域組織等に頻繁に情報提供を行っている

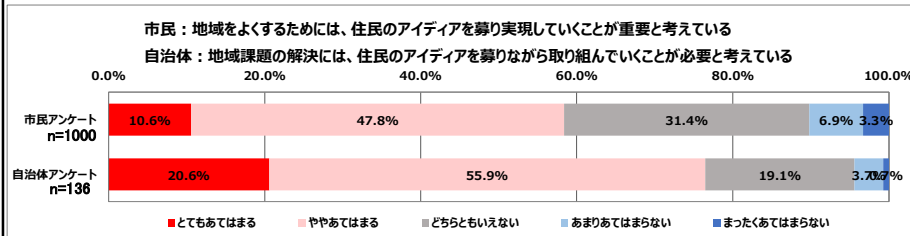


35

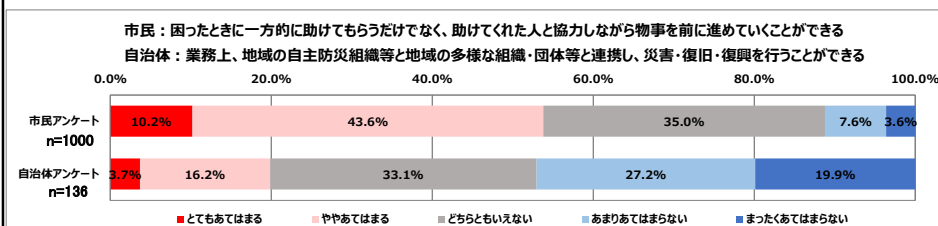
5 住民向け・自治体職員向けアンケート調査結果比較②



■クロス集計結果【人材登用力】



■クロス集計結果【受援力】



36

6 アンケート調査分析結果を踏まえたとりまとめ方向性(案)



- ・ヒアリング結果に基づき想定した能力について、アンケートクロス集計結果からは、被災経験のある人は、WEBアンケート・自治体職員アンケート双方とも組織形成力、情報共有力、受援力が高い傾向
- ・ヒアリング結果に基づき想定した能力は、4つの能力に集約可能
- ・再集約した4つの能力について、因子得点を算定した結果、被災経験がある人、消防団や子供会に参画している人、地域参画力・協働要請力が高く、自主防災組織、に参画している人や会社経営者・役員は全能力が相対的に高い。

■とりまとめの方向性(案)

- ・地域組織に所属することが難しい中、共助のつながりとして住民同士、住民と行政、企業を含めて様々な団体とのつながりやネットワークを構築していくことが重要。また、企業との連携も重要
- ・地域等の組織参加が難しい場合も考慮した個人能力向上に資する取組の推進
- ・平時からのまちづくり等に携わり、地域住民・企業・行政担当者などとの人的ネットワークを有するキーパーソンを中心とした組織づくりが重要
⇒組織づくりに向けた行政支援・企業連携等

37